

平成 23 年度第 2 回「関西のブランド力向上推進有識者委員会」 議事録

日時：平成 24 年 3 月 27 日（火） 15:00～17:00

場所：大阪合同庁舎一号館 新館 3F A 会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 座長挨拶
3. 議事
 - (1) はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」モデル実施の検証報告（中間報告）について
 - (2) はなやか関西～文化首都年～2012「人形浄瑠璃」の取組選定及び展開について
 - ① 応募状況報告
 - ② 2012「人形浄瑠璃」の進め方
 - (3) その他
4. 閉会

1. 開会

2. 座長挨拶

3. 議事

(1) はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」モデル実施の検証報告（中間報告）について

橋爪座長

- ・ 報告書に反映することを前提に、各委員からコメントをお願いします。

河内委員

- ・ 「茶の文化」では取組の展開の途中で、多くの参加希望団体があった。継続して取組を続けていると、関心が高まる。今後も取組を重ねていけば効果があると思う。
- ・ 今年度の成果は、次年度の「人形浄瑠璃」に活かされると思う。
- ・ また、学生に参加してもらったのも良かった。
- ・ 私は神戸夙川学院大学 観光文化学部に移ることになったのだが、うまく学生に参加してもらえれば、人材面不足の面も対応できると思う。

坂上委員

- ・ 関西が1つにまとまった最近では初めての事業だと思う。
- ・ 事務局は大変だったと思うが、ローコストで効果が上がったのではないか。初年度としては良いスタートが切れたと思う。
- ・ 継続性が重要となる。情報発信のあり方、知名度向上の徹底等に関して、次年度、もっと工夫すると効果が上がると思う。
- ・ 初年度の反省を踏まえて、ステップアップすればよいと思う。

千田委員

- ・ 関西の人たちが、どの程度関心を持ったのかという追跡調査が重要と考える。
- ・ 私が本会議に関わっていなかったら、はなやか関西の取組を知らなかったと思う。
- ・ 関西全体を盛り上げなければならない事業なので、認知度向上の方策を考えて欲しい。
- ・ 結局、資金不足という結論となるが、ここをどうクリアするのが課題である。

堀井委員

- ・ 私は実行委員会に参加させていただいた。先ほど報告いただいた検証結果は全くその通りであると思う。
- ・ 実際いくつかの事業に参加させていただいた感想として、参加団体が思いのほか多かったと思う。初年度の出発としては、まずまずだったのではないか。
- ・ アドバイザーの方に色々伺えて、数より、質の面で、茶の文化の奥深さを知ることができ有益だった。
- ・ また、若い人を巻き込んだことが非常に良かった。
- ・ 出発としては一定の成果があったと思うが、まだまだ認知度が高くない。ただし、いきなり認知度が向上することは難しいと思う。
- ・ 京都や奈良も、ゆるキャラ等の取組を通じて、徐々にブレイクしていった。いずれはブレイクすることをめざして、取り組むことが重要である。ブレイクポイントを数年先に設定することが必要ではないか。段階的に向上させ、ヨーロッパの文化首都のような成果に結び付けていければと思う。
- ・ 事務局は大変だったと思う。国土交通省が、広域地方計画として「文化」を取り上げたことが大きい。今後も旗振り役を続けていただきたいと思う。

村田委員

- ・ 先般、関経連の会合でも申し上げたが、講演会の開催や歴史街道視察等での協力は良かったが経済界として、この文化首都年の活動にもっと協力できることがあったのではないかと感じている。
- ・ 同友会との連携ももっと推進しても良かったと思う。同友会は、奈良、滋賀、徳島等関西の各府県にある。
- ・ 今後は観光との結びつきをもう少し強化することが重要である。ただし、あまり経済的な面を追い求めすぎると、本質的な「文化」の部分を見失ってしまう可能性があるため、

バランスにも注意する必要があると思うが。

事務局

- ・ 学生の参加については、来年度についても引き続き行っていきたい。来年度は学生会議や研究発表会を予定している
- ・ 情報発信に関しては、今年の反省点は多い。ガイドブックの配布数も少なかった。来年度は、A3 1枚を両面刷りし、A4の大きさにした簡単に手に取ってもらえるリーフレットのような媒体を作成しようと考えている。
- ・ 認知度の追跡調査に関しては行ってないが、他の調査と連携するなどして、行っていきたいと思う。
- ・ ブレイクポイントに関しても、今年モデル実施を踏まえ、反省を繰り返しながらステップアップしていきたいと考えている。
- ・ 観光との結びつきに関しては、次年度のテーマである「人形浄瑠璃」では、人形浄瑠璃街道などの取組があるので、観光と結びつけることができるのではないかと考えている。

橋爪座長

- ・ 評価指標は、事前に設定しておく必要があると思う。事後設定にならないように、心がけていただきたい。
- ・ 「茶の文化」の継続については、当初から課題となることは分かっていた。対策を事前に考えることもできたと思う。
- ・ また今後、取組を進めていく上で、はなやか関西の「イベント」を認知してもらうのか、毎年1つのテーマを設定し関西全体で文化・観光を盛り上げようとする「枠組み」を認知してもらうのかを整理しておく必要がある。私は後者が重要と考えている。

(2) はなやか関西～文化首都年～2012「人形浄瑠璃」の取組選定及び展開について

■応募状況報告

橋爪座長

- ・ 応募案件を全て選定となるがいかがか。

河内委員

- ・ 見ている限り、おかしな団体はない。たくさん参加してきたと言えるか。

事務局

- ・ 「茶の文化」の時よりも、初期の申込みは多くなっている。

河内委員

- ・ 尼崎市は「近松門左衛門」を文化行政の柱としているため情報収集に熱心なので、参加してくれている。

坂上委員

- ・ スケールが小さい取組から、高い取組まで混在している。ランクやタイプで分類するなど、見やすさに工夫をして欲しい。

事務局

- ・ 承知した。

千田委員

- ・ 私は特に意見はない。

橋爪座長

- ・ 今後もたくさんの応募が来ることを想定しているのか。ガイドブックの掲載はいつが締め切りか。

事務局

- ・ ガイドブックの掲載はもう締め切っている。

堀井委員

- ・ 人形浄瑠璃といった際に、人形に焦点を当てるのか、浄瑠璃に焦点を当てるのか、両方揃っているものに焦点を当てるのか。例えば、四国の山車にからくり人形が乗ったような取組は対象となるのか。
- ・ どの範囲までを対象とするのか、明確化する必要がある。

村田委員

- ・ 取組選定に関して疑義はない。
- ・ 発信の仕方として、工夫が必要と考える。今話題のドナルド・キーン氏に発信してもらうなどが考えられる。キーン氏は人形浄瑠璃に関して造詣が深い。

河内委員

- ・ 柏崎に「ドナルド・キーン記念館」ができる。今、キーン氏の協力が得られれば大きい。
- ・ イギリス人などは人形浄瑠璃のファンが多い。海外の人にも積極的に発信して欲しい。

橋爪座長

- ・ 関西以外のところと、パブリシティやイベント等で連携を広げていくことは良いと思う。

河内委員

- ・ NHKの朝ドラに人形浄瑠璃を売り込んでいる。朝ドラに取り上げられれば、一気に関心が高まる。

河内委員

- ・ 取組団体にランクづけをすることはできるのか。

事務局

- ・ 現在、人形浄瑠璃に関する要素ごとに、取組団体を分類し、色分けをしている。

橋爪座長

- ・ 人形浄瑠璃に影響を受けた取組も対象になるとの理解でよいか。

事務局

- ・ その理解が良い。

河内委員

- ・ 受け手の側に立ったプロモーションツールを作ることが重要である。

- ・ 取組の種類や実施時期等を整理することで、観光と連携できるのか等が分かってくる。旅行会社としても旅行商品を作ることができるのか判断しやすくなる。
- ・ 事前のチケット購入が必要かどうかも分かったほうが良い。徳島県の国民文化祭の取組もチケットをどのように配布するのか等をしっかり押さえておく必要がある。

事務局

- ・ ご指摘の点を踏まえて、今後、取り組みたいと思う。

■2012「人形浄瑠璃」の進め方

橋爪座長

- ・ 徳島県にお伺いしたいが、なぜ5年で改めて国民文化祭を開催しようと思ったのか。

徳島県

- ・ 徳島県においては、平成19年度国民文化祭を開催したが、翌20年度より「文化立県とくしま推進事業」を展開し、国民文化祭の4大モチーフとして掲げた「ベートーヴェン第九」、「阿波人形浄瑠璃」、「阿波藍」、「阿波おどり」を平成20年度～23年度に順次テーマとして取り上げ事業を実施してきた。このような中、5年目となる平成24年度に集大成となるイベントができたという思いがあった。
- ・ その折に、平成24年度の国民文化祭の開催場所が決まっていないとの情報を得て、エントリーすることとなった。

橋爪座長

- ・ 平成24年度の人形浄瑠璃の実行委員長を務められる河内委員から何か意見はないか。

河内委員

- ・ 人形浄瑠璃街道をつくることにより、流れができてきた。人形浄瑠璃は、絵として描きやすい。点から線、線から面へ広げていくことが重要である。
- ・ 徳島県は観光との組み合わせをうまく作ったほうが良い。人形浄瑠璃が対象だが、「人形」全てにすると広がりすぎると思うので、ドラマ（脚本）を持った人形浄瑠璃を基本としていきたい。
- ・ 日本の人形浄瑠璃は珍しい。歌舞伎の名作も人形浄瑠璃・文楽から生まれてきている。これほど人形芝居の地位が高い国は世界的に珍しい。非常に重要なテーマだと思うので、情報発信をしっかりと行っていきたいと思う。

坂上委員

- ・ 取組参加団体の中に国立文楽劇場が無いがなぜか。

事務局

- ・ 茶の文化における千家と同じ扱いをさせていただいている。既に「本物」であり「文化資源」そのものという位置づけである。

坂上委員

- ・ 資料でそれが分かる形にしてもらえればと思う。

事務局

- ・ 「本物」という表現をしていたが、検討させていただく。

坂上委員

- ・ 学生との連携についてだが、今年度の「茶の文化」のような観光系は難しいと思う。
- ・ 来年度の人形浄瑠璃では、連携先が文学部などになるのではないか。来年度は、文化的な研究をしているグループを抽出したほうがいい。

河内委員

- ・ 早稲田大学など、案外、東京の大学のほうが興味を持ちそうである。

千田委員

- ・ 国立文楽劇場をレベルの違う扱いにするには違和感がある。両者の間を縮めるような仕組みが必要ではないか。事務局として、働きかけをしていただけないか。

事務局

- ・ 国立文楽劇場からは、協力していただけるという話はいただいている。

千田委員

- ・ そこは是非、積極的に進めていただきたい。
- ・ 今回、徳島県に入っただけなのは恵まれていることだと思う。その徳島県に乗り過ぎるのは良くない。徳島県を支えるというのが、本来あるべき姿である。
- ・ はなやか関西としてもリーダーシップをとっていくべきである。
- ・ 観光雑誌の特集に売り込むなど、他の主体との連携をもっと図るべきである。
- ・ 平城選都 1300 年では、様々な雑誌社が訪れた。文化首都年をもっと記事にしてもらうような工夫をすべきである。
- ・ 昨今、インターネットと言えばフェイスブックばかり挙げられるが、方法としては安易な気がする。人形浄瑠璃ファンがフェイスブックを見るだろうか。
- ・ 雑誌社に足を運ぶなど、もっと汗をかくような取組が重要と思う。

堀井委員

- ・ はなやか関西の取組に、「国際色」をつけ加える必要があると思う。
- ・ 領事館向けイベント以外にも、関西プレスクラブと連携して、外国通信社向けに情報発信してはどうか。
- ・ 学校との連携の際は、留学生を巻き込むと良いと思う。天理大学の学生等、人形浄瑠璃に関心を持っている外国人は結構いる。
- ・ 領事館、プレスクラブ、留学生を意識したらどうかと思う。

村田委員

- ・ 昔、産経新聞の人形浄瑠璃の写真を見て、美しいと思った印象が残っている。新聞との連携も可能性があるのかなと思う。

橋爪座長

- ・ 領事館フォーラムが事務局資料の事業企画として挙げられているが、タイアップ事業と

いうことか。

事務局

- ・ そうである。

橋爪座長

- ・ 茶の文化の予算はいくらだったのか。

事務局

- ・ 約 500 万円である。来年度は、本省との相談である。
- ・ 来年度は他の主体と積極的に連携を図りたいと思う。
- ・ 本日お配りしている資料は、確実にできると思われる事業を掲載している。他にも可能性のある事業はあるので、検討していきたい。

橋爪座長

- ・ 是非、予算を取っていただければと思う。
- ・ 本日はこれで終了する。

4. 閉会

事務局

- ・ 第2回ブランド向上推進委員会を終了させていただく。本日はありがとうございました。

以上

[追加意見]

このプロジェクトの継続性について、検討が必要である。